

あとがき

本書は、上総国山辺郡台方村(現千葉県東金市)を主要なフィールドにした共同研究の成果である。われわれは、二〇一二年三月に台方村研究会を発足させ、以後今日にいたるまで二〇回の研究会を重ねるとともに、現地でのフィールドワークなどを行ってきた。メンバーは一〇人以上いるが、今回はそのうちの五人が論文を執筆した。

台方村を共同研究のフィールドに設定したのには、私の個人的な事情が関わっている。本書で使用されている主要な文書群の一つに台方村前嶋家文書がある。同文書は、現在、千葉県文書館と前嶋家に所蔵されており、それぞれ目録が作成されている。文書館所蔵分の目録は分冊で刊行されており、『前嶋家文書目録1』は一九八八年三月に刊行された。今から二八年前のことである。このときは、まだ千葉県文書館は開館していなかった(開館は一九八八年六月)。

『前嶋家文書目録1』が刊行される前に、すでに前嶋家文書は高村直助・吉田伸之・久留島浩各氏を中心とする方々によって整理が進められていた。そこで作られたカード目録をベースに、冊子体目録の刊行作業に当たったのが、伊藤陽啓・加藤光男・出口宏幸・早川麻由美・平野明夫の各氏と私であり、そのとき私はまだ三〇歳であった。一九八七〜八八年にかけて、プレハブ造りの文書館準備室に足しげく通ったのも今となってはなつかしい思い出である。

その後、前嶋家文書の目録刊行は長い間ストップしていたが、千葉県文書館の方々の御努力により、二〇一三年に『前嶋家文書目録2』が刊行され、二〇一六年の『前嶋家文書目録5』をもって目録の刊行は完了する。台方村の今一つの主要文書群である有原家文書(千葉県文書館寄託)も、二〇一一年〜二〇一二年に二冊の目録が刊行されて整理が終了

した。また、自宅所蔵分の前嶋家文書は、もっと早い時期に、立野晃氏を中心とする房総史料調査会の方々によって整理と目録作成が行なわれている。

こうして、前嶋・有原両家文書の目録刊行が進み、両文書群を用いて研究する環境が整ってきたのをみて、私は三〇歳のころを思い出し、再び前嶋家と台方村の研究に取り組んでみようという気になった。私も、はや二〇一七年には還暦を迎える。そこで、研究のほうでも「原点回帰」しようと思いついたのである。

とはいえ、前嶋・有原両家の文書だけでも膨大な量であり、台方村内外には他にも多数の文書群が存在する。とても、一人の手に負えるものではない。そこで、若手研究者の方々に呼びかけて研究会を立ち上げた。中谷正克氏には、研究会の取りまとめ役として尽力していただいた。その最初の成果が本書である。

しかし、台方村とその周辺地域に関しては、まだまだ重要な研究テーマがたくさんある。本書をワンステップとして、引き続き共同研究を継続・推進していくつもりである。

末筆ながら、前嶋・有原両家の皆様、また前嶋・有原両家の文書をはじめ、関連する文書群の整理に当たられた多くの方々に深甚の謝意を表したい。そして、本書刊行に当たってたいへんお世話になった、岩田書院の岩田博氏に厚くお礼申し上げます。

二〇一六年一月

渡辺 尚志



あいきゅうそんらく かづさのくにやまべ ぐんざいかたむら
相給村落からみた近世社会 一上総国山辺郡台方村の総合研究一

2016年(平成28年)2月 第1刷 300部発行 定価[本体6000円+税]

編者 渡辺 尚志

発行所 有限会社 岩田書院 代表: 岩田 博 <http://www.iwata-shoin.co.jp>
〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山4-25-6-103 電話03-3326-3757 FAX03-3326-6788
組版・印刷・製本: 藤原印刷

ISBN978-4-86602-944-3 C3021 ¥6000E



【編者・執筆者紹介】執筆順

渡辺 尚志 (わたなべ・たかし) 1957年生まれ
東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学 博士(文学)
一橋大学大学院社会学研究科教授
『惣百姓と近世村落』(岩田書院、2007年)
『豪農・村落共同体と地域社会』(柏書房、2007年)
『近世の村落と地域社会』(塙書房、2007年)
『幕末維新期の名望家と地域社会』(同成社、2014年)

中谷 正克 (なかにに・まさかつ) 1972年生まれ
東洋大学大学院文学研究科日本史学専攻修了 修士(文学)
立川市史編さん担当嘱託
『近世後期下野国幕領における陣屋下役と郡中惣代』(『関東近世史研究』52号、2003年)
『近世後期幕府代官仕法とその意義』(『白山史学』46号、2010年)
『郷蔵保管の性格とその維持・運用』(渡辺尚志編『東北の村の近世』東京堂出版、2011年)

小松 賢司 (こまつ・けんじ) 1978年生まれ
学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程修了 博士(史学)
福島大学人間発達文化学類准教授
『幕末期岡田家の地主小作関係と村落』
(渡辺尚志編『畿内の豪農経営と地域社会』思文閣出版、2008年)
『豪農の土地所持と村落』(渡辺尚志編『東北の村の近世』東京堂出版、2011年)
『近世後期社会の構造と村請制』(校倉書房、2014年)

高橋 伸拓 (たかはし・のぶひろ) 1980年生まれ
立正大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程単位取得満期退学 博士(文学)
茨木市立文化財資料館学芸員
『近世飛騨林業の展開—生業・資源・環境の視点から—』(岩田書院、2011年)
『近世後期関東における酒造業経営と酒の流通—地域酒造家の分析を中心に—』
(『関東近世史研究』67号、2009年)
『近世後期東上総における酒の流通と小売酒屋—夷隅郡白井郷を中心に—』
(『千葉史学』67号、2015年)

宮間 純一 (みやま・じゅんいち) 1982年生まれ
中央大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程修了 博士(史学)
宮内庁書陵部研究員
『国葬の成立—明治国家と「功臣」の死—』(勉誠出版、2015年)
『戊辰内乱期の社会—佐幕と勤王のあいだ—』(思文閣出版、2015年)